

誰も売ってくれなければ、自分で売るしかない。
そこで一軒の薬局を作りました。



一九九九年春、朝日新聞紙上で
お伝えした私達のメッセージです。

朝日新聞 1999年3月17日朝刊

1967年5月12日。

日本橋の裏通りに、一軒の薬局がオープンしました。

中国医学や中国の薬を熱心に勉強した薬剤師が、

薬を求めに来たお客様に色々な相談にのる、

日本で初め、中成薬・中医学理論を採り入れた

専門薬局でした。

扱いたくない中国の薬…。

誰も、なかなか売ってくれなかったので、

自分たちで売ることにしたのです。

例えば立地条件が悪くても、本当にいいものなら、

きつと根づく。きつと繁盛すると信じての出発でした。

あれから30余年。

一点の火花でも、やがて広野を燃えつくす力となるように。

いま中国の薬を売り、中医学を啓蒙する、

「日本中医薬研究会」の会員店は、千店を越えました。

誰もやらないなら、自分たちでやる。

それが「中成薬のイスクラ」と「日本中医薬研究会」です。